

事務局より 植物分類学関連学会連絡会と自然史学会連合への参加について

去る3月28日の総会で、分類学関連学会連絡会と自然史学会連合に日本藻類学会も参加することが承されました。ここにそれぞれの設立の趣旨、活動予定などについてご説明したいと思います。

まず、植物分類学関連学会連絡会ですが、その設立の趣旨は「植物分類学に関連する研究分野は植物や菌類の世界が極めて多様であることを反映して対象とする分類群や方法によっていくつもの学会に分かれ、これまでそれぞれ個別の活動を行ってきた。その結果、学会間の相互理解や研究協力が十分に行われているとはいえない状況にある。一方、我が国における植物分類学関連諸分野の研究教育のよりいっそうの発展のためには、これまで蓄積されてきた研究成果の社会的普及を図り、後継者育成を推進することが求められる。そのためには、生物多様性の研究において統合的視点が必要とされる現在、各学会個別の活動に加え、互いに協力しあえる範囲で緊密な連絡をとりつつ全体として活動を活性化していく必要がある。各学会がこれまでそれぞれ固有の歴史と会員組織を持ち、研究対象の分類群や研究手法における重心の位置、各組織発展の歴史が異なることを認識しつつ、下記に揚げたような諸事項について、情報を交換し、また互いに検討しあうことを目的に連絡会を結成するものである。(同連絡会趣意書より)」というもので、具体的には、1) 本連絡会参加各学会の日常活動、植物分類学関連諸分野の研究教育の現状などについての情報交換をし、2) 各学会主催の研究発表会、シンポジウム、後援会などへの他学会員の参加を容易にするなど学会活動を協力して行う活動を追求する、ことを活動目標として挙げています。上記連絡会に参加を表明している学会は、種生物学会、植物地理・分類学会、植物分類地理学会、地衣類研究会、日本菌学会、日本シダ学会、日本植物分類学会、日本蘚苔類学会それに日本藻類学会です。第1回の会合が今年3月鹿児島市で開かれ、そこで上の目標を具体化するために以下の点が決定されました。1) 1994年度発行物を事務局間で交換し、必要な内容については各学会のニュースレター等で紹介する、2) 大会、シンポジウム、各学会主催による行事等に関して情報交換する、3) 会誌の共同編集・共同発行を考えるワーキンググループを発足させる。これには希望学会のみが参加する、4) 次回の会合は9月末の植物学会の大会中におこなう。このうち、3) に関しては当学会としては当面、参加する必要はないと考えられますが、その他の点に関しては積極的に情報を交換していく必要があると思います。もちろん、藻類学会は藻類という“素材”を中心に人々が集まった学会ですから、分

類学関連の連絡会に学会として参加することに違和感を覚える会員もおられることは思います。しかしながら幅広い学会活動の一部として植物の多様性に関わる学会同士が情報を交換し、可能な限り協力して多様性研究の発展に努力していくことは学会として意義あることではないでしょうか。

自然史連合はその名の通り自然史に関係する学会の連合で、古生物関係、植物関係、動物関係の学会などから構成されます。詳しい設立の経緯などは省略しますが、本連合は次の点をその活動目的に掲げています。「連合は学協会の自由意志による参加で構成され、当面新しい総合的な自然史科学のあり方を考え、協力して研究教育環境の改善を図る。この目的を達成するために、共同名で声明や具体案をもって各方面に働きかけ、また共通する課題について共同のシンポジウム、講演会、啓蒙活動を行う。実務は学会連合が行い、関連する研連が要請に応じて会合の世話、学術会議への連絡、答申を行う。経費は当面団体、個人の寄付による。」具体的には、1) 大学と博物館が連帯して自然史の発展に努力することが必要である、2) 社会の自然離れの風潮に対し、自然史は人間教育上重要であることを訴えることが必要である、3) 文部省に自然史とその教育の重要性を理解させる必要がある、といった認識に立った上で、例えば総合的な国立自然史研究施設の設立のための種々の活動や、最近の「自然史離れ」の防止と自然史教育環境の改善を訴えるためのシンポジウムの共同開催などを計画しています。6月3日には自然史学会連合の設立総会が文部省・文化庁関係者やマスコミ関係者も招いて開催されることになっており当学会からは吉田忠生会長と田中次郎氏(東京水産大学)が出席の予定です。

日本藻類学会では、当面、植物分類学関連学会連絡会は庶務幹事の堀口が、自然史連合は田中次郎氏が学会の窓口として対応することになっています。これらの団体に参加し、その活動をより活性化していくためには、学会としても積極的に提言をしていく必要があります。どちらの団体に関連した事項でも構いませんのでそれぞれの担当者(堀口・田中)までご意見をお寄せください。 堀口健雄(庶務幹事)

6月3日の自然史学会連合の設立総会は関係27学協会の参加をえて盛会のうちに終わり、次回は平成7年10月7日(土)に「自然と人間の共生-21世紀の自然史科学の研究と展望を探る」と題したシンポジウムを連合が主催し開催されることが決定しました。

田中次郎(東京水産大学)